

# 教 育 研 究 業 績

氏名：関谷 大輝  
学位：博士（カウンセリング科学）（筑波大学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
心理学（産業心理学，感情心理学，観光心理学） ソーシャルワーク	感情労働，ストレス，ツーリズム，温泉 福祉とキャリア，ケースワーク，福祉カウンセリング	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
1) ゼミナール内での学生との教材共同制作	2014年6月 ～2016年7月	ゼミナール内での社会福祉士国家資格対策学習において，頻出用語を効率的に理解・記録するための方策として，「かるた」形式の暗記教材を所属ゼミ生と共に共同制作した。
2) 社会福祉士試験対策用の独自問題の作成	2014年6月 ～2016年1月	社会福祉士国家資格に向けた学習促進の一環として，ゼミナール内での問題演習を実施している。その際の問題は，過去の出題傾向や重要事項を反映し，再生型問題を独自に作成した。
3) 社会福祉支援現場の職員と協働したシンポジウムの開催	2014年7月	社会福祉の支援現場の実情，実態を理解し，将来のキャリアプランに役立つことを意図し，現職の社会福祉職公務員を招聘した座談会形式のシンポジウムを開催した。聴講した学生からは，「現場のことがよくわかった」「聞いていて飽きなかった」といった好意的な評価が多く寄せられた。
4) 筑波大学心理学系ゼミとの合同研究発表会の企画実施	2015年8月 2016年9月	筑波大学心理学系の湯川研究室，藤研究室との合同研究発表会を企画・実施し，卒業論文の指導を受講している3～4年生の研究発表について指導を行うとともに，大学間での親睦を図った。
5) 卒業論文研究の学会発表に関する指導および大会参加	2015年10月 2016年6月 2017年6月 2018年11月 2019年11月 2020年12月	卒業論文ゼミに所属する学生の研究課題について，研究成果の学会報告を目標に指導を行ない，学会での共同発表を実現した。（日本福祉心理学会：2015年10月，2019年11月，2020年12月。日本感情心理学会：2016年6月，2018年11月）。
6) 学外見学研修コーディネート	2016年2月， 2016年8月	対人支援に関わる実践現場を間近に見学することで，学習を深めることを目的に，現場で

7) 双方向性を重視したリアクションペーパーの改善	2016年4月～ 2019年2月	支援に当たるスタッフの方の助力を得て、主にゼミ所属学生が参加する学外研修を計画・コーディネートした。2016年2月には、横浜市西部児童相談所および横浜市中区寿地区の見学、2016年8月には、東京都・山谷地区の訪問看護ステーションの見学を実施した。
8) 課外活動指導・支援	2016年11月～ 2019年3月	三重大学・織田揮氏が考案した「大福帳」をアレンジし、大人数の講義科目でも学生が臆せず質問や意見表明等ができるリアクションペーパーを作成し、活用している。すべてのリアクションには毎授業後に目を通し、些細な質問であっても可能な限りレスポンスを行った。
9) 公務員合格対策（小論文、面接対策等）自主ゼミの主催	2019年4月～ 2021年3月	楽器演奏経験がある学生を募り新たな音楽サークルを立ち上げ、顧問に就任するとともに、メンバー（奏者）としてもサークル活動に参加している。学生のサークル運営における自主性を尊重しながら、必要に応じて演奏企画の提案や事務局との調整などを行った。活動の安定化を支援し、ミニ演奏会の開催や学園祭での演奏を実現する等した。
10) ICT を活用したリアクションおよび授業内アンケート実施	2019年4月～ 2020年3月	福祉心理学科内に一定数の公務員志望者がいることを踏まえ、学生独力では対策が困難であり、かつ、学内実施の公務員講座でも扱えない小論文対策と面接対策を中心に、講義、演習、添削等を実施する自主ゼミを組織した。今後の公務員志望者の組織化と公務員受験対策のバックアップを行っている。なお、本自主ゼミは、2019年度東京成徳大学学長裁量予算による助成支援対象事業として選定された。成果として、2019年度、2020年度試験において、指導した学生が公務員採用試験に合格し、採用された。
11) オンライン授業における OBS Studio を用いたライブ配信形式の授業展開と「パパパコメント」システムの活用、およびオンデマンド授業の YouTube による視聴環境整備	2020年4月～	オンラインでの授業実施が一般化する以前から、Google フォームを活用し、授業ごとのリアクションや質問受付等のオンライン化を行ってきた。また、授業内での質問紙回答演習を実施する際にもオンライン上での回答を行うことで、受講生平均値等の簡易な分析結果をフィードバックした。
		新型コロナウイルス感染症対策によって授業がオンライン化されたことに伴い、学生の授業受講意欲を高め、オンライン授業の質を確保することを目的に、ライブ配信ソフトである OBS Studio を活用し、「資料共有」型とは異なり、講師とスライド表示が同画面内に表示されるいわゆる「天気予報スタイル」でのオンライン授業を実施した。また、オンデマンド動画の際には授業動画は YouTube 上から視聴可能にし、好評を博した。さらに、リアルタイム匿名コメントシステム「パパパコメ

		ント」を活用し、学生がリアルタイムにコメントを投稿できる仕組みを採用した。
2. 作成した教科書、教材		
1) 『スタンダード社会心理学』(サイエンス社)	2010年12月	シリーズ第8巻“社会心理学”のうち、“健康”に関する章において、現代の職業人の精神的健康に関する内容について、感情労働の視点を中心に据え、分担執筆を行った。(該当章分担執筆者：畑中美穂・関谷大輝、松井 豊(監修)、湯川進太郎・吉田富二雄(編集))
2) 『看護に活かすカウンセリング II 感情のマネジメント—効果的な患者支援と看護師のメンタルヘルスのための自己調節—』(ナカニシヤ出版)	2016年3月	シリーズ第2巻中、感情の開示について扱う章を分担執筆者として担当した。 (伊藤まゆみ(編)、分担執筆 範囲: 第5章3 『不快な感情を効果的に表出する: 筆記開示法』)
3) 『基礎から学べる医療現場で役立つ心理学』(ミネルヴァ書房)	2020年4月	医療職と感情に関するコラム執筆を担当した。(大川一郎・土田宣明・高見美保(編)、分担執筆 範囲: Column4-1 医療の仕事に求められる資源—感情—)
4) 『実践につながる新しい教養の心理学』(ミネルヴァ書房)	2022年2月	第16章の分担執筆を担当した(大浦賢治(編)、分担執筆 範囲: 第16章『キャリアの心理学』)。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
1) 聴講学生による授業評価(『社会心理学特講』筑波大学)	2012年12月	聴講生(N=25)より無記名式の講義評価アンケートを回収した。その結果、本講義は絶対評価(100点満点)において平均88.72(SD:9.74)点の評価を得た。また、他の講義との比較による相対評価においても、本講義は上位17パーセンタイル内に位置づけられる講義であったと評価され(受講者の半数は10パーセンタイル内と評価した)、総体的に高い評価を得た。
2) 聴講学生による授業評価(『一般心理学』東京成徳大学)	2014年1月	聴講生(N=85)を対象に、通年授業の最終回(年度末)に実施したアンケートにおいて、「教員が熱心」「受講してよかった」など19種から成る評価項目において、2項目(「自分はこの授業で遅刻はしていない」、「私語、居眠り、携帯電話操作などはしていない」)を除き、全体平均得点を上回る評価を得た。また、全19項目の平均得点は4.36点(最大値5点)であり、他講義も含めた大学全体の平均得点である4.05点を上回る高い評価を得た。
3) 聴講学生による授業評価(『一般心理学』東京成徳大学)	2015年9月	聴講生(N=79)を対象に実施したアンケートにおいて、17領域中15領域において、全体平均得点を上回る授業評価を得た。平均を下回った2領域は、学生が学生自身を評価する「予習復習をしている」「授業に集中できてい

4) 聴講学生による授業評価 (『心理学原論, 心理学』常磐大学)	2017年3月	<p>る」であった。総合的に「この授業を受けてよかった」という評価も5点中4.6点であり、前年度を上回る評価を得た。</p> <p>聴講生 (N=55) を対象に実施した授業評価アンケートにおいて、「この授業を受けて満足した」という質問に対し、平均得点が5点中4.62点の高い評価を得た。自由記述回答においても、「身になることを学べた」「毎授業がとても新鮮だった」「授業が楽しかった」「授業の雰囲気が良い」「面白く、あきることがなかった」といった肯定的評価が多く寄せられた。</p>
5) 聴講学生による授業評価 (『社会福祉援助技術演習Ⅱ』常磐大学)	2017年3月	<p>聴講生 (N=10) を対象に実施した授業評価アンケートにおいて、「この授業を受けて満足した」という質問に対し、平均得点が5点中4.5点の高い評価を得た。自由記述回答では、「今後役に立つようなことを学習した」「説明がわかりやすかった」「他の科目では学べないことを学べた」「書く力、読み取る力などが身に付いた」など、肯定的な評価が多く寄せられた。</p>
6) 聴講学生による授業評価 (『カウンセリング心理学』東京成徳大学)	2018年7月	<p>聴講生 (N=26) を対象に実施した授業評価アンケートにおいて、「この授業を受けて満足した」という質問に対し、平均得点が5点中4.4点の高い評価を得た (大学全体の平均得点は4.1点)。</p>
7) 東京成徳大学学長賞受賞	2020年4月	<p>2019年度中の学内における教育・研究への取り組みにおいて、大学への貢献が顕著であるとして、学長賞を授与された。</p>
8) 埼玉県立大学道学教師理事長賞受賞	2021年3月	<p>後期科目「心理学」を担当し、授業運営等において教育実践上顕著な成績を上げたとして、学生からの推薦および教員による審査を経て、非常勤講師として初めて道学教師理事長賞を授与された。</p>
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 社会福祉士相談援助実習生受け入れ時の指導分担	2003～2005年度, 2009～2012年度	<p>社会福祉士相談援助実習を行う大学生を受け入れる際、所属内における実習生指導を分担し、実習記録へのコメント、実習生教育等を行った。</p>
2) 社会福祉士実習指導者講習会修了	2013年3月	<p>社会福祉士相談援助実習の実習生を受け入れる実習施設側の立場から、実習指導の要点やプログラミングの手法、養成校との連携等について講習を受けた。これによって、施設側の実習生受け入れ時の対応についても理解を深め、その知識を大学での実習指導に反映した。</p>
3) 精神保健福祉士国家資格取得	2016年4月	<p>通信制専門学校を活用し、精神保健福祉士国家試験を受験し、同資格を新たに取得した。受験にあたって学習した事項や、実際に受験</p>

4) ストレスチェック実施者研修会修了	2017年6月	をした経験等について、受験を控えている学生への指導に還元したほか、学生支援等の場において資格取得に伴う専門知識を活用している。
5) 国家資格キャリアコンサルタント取得, 2級キャリアコンサルティング技能士取得	2018年2月, 2021年3月	労働安全衛生規則第52条の10第1項第3号の規定に基づき厚生労働大臣が定める研修(ストレスチェック実施者研修, 主催: 公益社団法人日本精神保健福祉士協会)を受講し, 精神保健福祉士として事業所のストレスチェック実施者となる資格を得た。
6) 公認心理師国家資格取得	2019年2月	2017年度開催の養成講座を修了した上で, 国家資格キャリアコンサルタントを新たに取得した。また2021年3月には2級キャリアコンサルティング技能士を取得し, 学生に対するキャリア支援や就職活動相談等の実践時に, 知識や技術を応用している。
7) 茨城県スクールソーシャルワーカー	2019年4月～	公認心理師国家資格を新たに取得した。
5. その他		茨城県スクールソーシャルワーカー(登録制非常勤職)として任用され, 派遣依頼に応じて県内の小学校においてスクールソーシャルワーク実践に携わっている。
1) 東京成徳大学心理・福祉相談室室長代行(兼担当カウンセラー)	2015年4月～2019年3月	東京成徳大学心理・福祉相談室の室長代行として, 相談室の運営業務を担当している。また, カウンセラーとして一般市民からの相談に応じ, 定期的なカウンセリング臨床等を担当した。
2) 東京成徳大学心理・福祉相談室, 保健管理センター(八千代キャンパス)運営委員長	2020年4月～2022年3月	八千代キャンパス内の心理・福祉相談室, 保健管理センター運営委員長として, 相談室体制等の調整に携わった。
職務上の実績に関する事項		
職務上の実績に関する事項	年月日	概要
1. 資格、免許		
1) 社会福祉士(国家資格)	2001年4月	社会福祉士登録番号: 27530号
2) 精神保健福祉士(国家資格)	2016年4月	精神保健福祉士登録番号: 71533号
3) 専門社会調査士	2011年10月	第001803号
4) 国家資格キャリアコンサルタント	2018年2月	登録番号 17075442
5) 公認心理師(国家資格)	2019年2月	第7233号
6) 2級キャリアコンサルティング技能士	2021年3月	第20S17402622号
2. 特許等		
—	—	—
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		

1) 福祉事務所生活保護担当部署での勤務経験	2021年4月～ 2011年3月	横浜市役所（社会福祉職）職員として、区福祉事務所（福祉保健センター）生活保護担当部署に勤務した。地区担当ケースワーカーとして、生活保護ケースワークの実践に携わった。担当世帯数は各年度概ね100世帯前後であり、生活困窮支援や自立支援、就労支援などの相談対応を行った。
2) 児童相談所での勤務経験	2011年4月～ 2013年3月	横浜市役所社会福祉職職員として、児童相談所に勤務した。児童福祉司として、児童福祉分野でのケースワーク実践に携わった。保護者および児童本人に対する児童虐待相談対応をはじめ、非行少年の相談支援、地域連携（各種協議会等への出席）等に従事した。
3) 社会福祉法人八千代市身体障害者福祉会事業所第三者委員	2016年4月～ 2022年4月	社会福祉法人の外部第三者委員として委嘱を受け、事業所を定期的に訪問し、利用者からの相談対応や苦情受付などについて面談を行った。
4) 千葉県八千代市 八千代市高齢者虐待防止地域連絡会委員	2014年11月～ 2022年3月	千葉県八千代市からの委嘱により、高齢者虐待防止地域連絡会委員（学識経験者）として、連絡会への参加や議長（議事進行）を務めた。
5) 茨城県スクールソーシャルワーカー	2019年4月～	茨城県スクールソーシャルワーカー（非常勤）としての委嘱を受け、県事務局からの依頼に応じて県内小学校における相談援助活動に従事している。
4. その他		
【受賞】		
1) 日本感情心理学会第18回大会優秀発表賞	2010年5月	日本感情心理学会第18回大会（広島大学）におけるポスター発表（関谷大輝・湯川進太郎（2010）. 携帯電話のEメールを活用した感情開示効果の検討—感情労働を行う現職の社会人を対象に— 日本感情心理学会第18回大会プログラム・予稿集, 30頁.）に対し、優秀発表として表彰を受けた。
2) 筑波大学心友会 上武学術奨励賞	2010年9月	関谷大輝・湯川進太郎（2009）. 対人援助職者の感情労働における感情的不協和経験の筆記開示 心理学研究, 80, 295-303. に対し、研究成果が優秀であったとして表彰を受けた。
3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科長賞	2011年3月	筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程在学中の研究成果が優秀であったとして、課程修了時に表彰を受けた。
4) 日本感情心理学会 『感情心理学研究』20巻 優秀論文賞	2013年5月	関谷大輝・湯川進太郎（2012）. 副次的感情の開示による感情労働者のバーンアウト低減の試み—携帯電話の電子メール機能を活用して— 感情心理学研究, 20, 9-17. に対し、研究成果が優秀であったとして表彰を受け

5) 日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第 18 回大会 優秀発表賞 口頭発表部門	2016 年 9 月	た。 日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第 18 回大会における口頭発表（関谷大輝・ナンカンキン（2016）. 仲間集団との関わりが持つ意味と影響—日本人とミャンマー人の比較から見える支援へのパースペクティブ— 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 18 回大会 プログラム・講演集, 36.）に対し、優秀発表賞として表彰を受けた。
6) 日本感情心理学会第 25 回大会グッド・プレゼンテーション賞	2017 年 6 月	日本感情心理学会第 25 回大会において行ったポスター発表（福島・関谷・石井（2017）. あなたの印象は 1 分で悪化する—既読後の時間経過が印象評価に与える影響）に対し、表彰を受けた。
7) 東京成徳大学学長賞	2020 年 4 月	2019 年度（2019 年度）中の教員としての活動による大学への貢献が顕著であったとして、表彰を受けた。
8) 埼玉県立大学道学教師理事長賞	2021 年 3 月	非常勤講師として後期科目「心理学」の授業運営等において、教育実践上顕著な成績を上げたとして表彰を受けた。
9) 日本感情心理学会 第 29 回大会優秀発表賞（グッド・プレゼンテーション賞）	2021 年 10 月	日本福祉心理学会第 29 回大会（オンライン開催）において行った口頭発表（『コロナ風呂、入ルベカラズ—入墨を拒否・許容する入浴施設に対する印象評定の差異に関する検討—』）が優秀発表として選出された。
<b>【社会貢献活動】</b> 1) メディア掲載, 取材対応	2017 年 2 月  2017 年 4 月  2017 年 5 月  2018 年 8 月	・【インタビュー】 著者に訊く！：あなたの仕事、感情労働ですよ？ 株式会社ぎょうせい 月刊ガバナンス No.190 (2017. 2月号) ・【寄稿】 日々疲れ果ててしまうのは「感情労働」のせい？ 読売新聞社 YOMIURI ONLINE 深読みチャンネル < <a href="http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20170330-0YT8T50031.html?from=yttop_os1&amp;seq=02">http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20170330-0YT8T50031.html?from=yttop_os1&amp;seq=02</a> > ・【インタビュー】 著者インタビュー：あなたの仕事、感情労働ですよ？ 環境新聞社 『シルバー新報』第 1258 号 ・【インタビュー】 モティファイ株式会社 (Motify) 働き方の達人 ポッドキャスト 「働き方の達人」エピソード 20: あなたの仕事、感情労働ですよ？

	2018年10月 ～2019年3月	連載・初めての感情労働 Risk Manager リスクマネジメント協会
	2018年12月	論点 感情労働にいかに向き合うか 全国社会福祉協議会 月刊福祉 pp. 48-49.
	2019年2月 ～2019年4月	連載・感情労働のメンタルヘルス 公益財団法人 介護労働安定センター CARE WORK (ケアワーク)
	2020年10月	“感情労働”としての自治体業務との向き 合い方 株式会社ぎょうせい 月刊ガバナンス (2020.10月号) キャリサポ特集 “ニューノ ーマル”時代のメンタルケア
2) 教員免許状更新講習講師	2022年6月	・【講師】2014年度免許状更新講習 東京成徳大学 ・【講師】2015年度免許状更新講習 東京成徳大学
	2014年8月	・【講師】2017年度免許状更新講習 東京成徳大学
	2015年7月	・【講師】2018年度免許状更新講習 東京成徳大学
	2017年8月	・【講師】2019年度免許状更新講習 東京成徳大学
3) 公開講座講師	2018年8月	・【講師】『“虐待”問題について考える』 東京成徳大学八千代キャンパス 2014年度 公開講座 (八千代市生涯学習プラザ)
	2019年8月	
4) 公開シンポジウム企画	2014年11月	・【公開シンポジウム企画, 話題提供】 “社会福祉職”としての支援の実際～福祉行 政の現場からの声～(東京成徳大学応用心理 学部福祉心理学科主催, 日本福祉心理学会・ 日本健康心理学会児童虐待防止研究部会後援 シンポジウム) 話題提供者: 高岡俊雄・塩田 学・寶田宣亮・関谷大輝, 指定討論・コメン テーター: 宮村りさ子, 企画・コーディネー ター: 関谷大輝
	2014年7月	
5) 公開シンポジウム登壇・話題提供	2011年9月	・【話題提供】 筑波大学大学院 Tsuku-場オープニング・イ ベント『場から ひろがる学びとキャリア』 話題提供: 『福祉—産業のつなぎ』 ・【話題提供】 日本福祉心理学会シンポジウム 『HOPE いま, 福祉心理学に期待されるもの— 福祉心理学を学 ぶ若人へ—』 企画・司会: 中山哲志, 話題提供者: 請井征 力・関谷大輝・宮 本文雄, 指定討論者: 渡邊映子 ・【話題提供】
	2013年7月	



<p>8) 高校進学ガイダンス，体験授業</p>	<p>2017年3月</p> <p>2014年10月</p> <p>2014年11月</p> <p>2015年5月</p> <p>2015年6月</p> <p>2015年11月</p> <p>2016年3月</p>	<p>感情労働～医療・福祉の現場から～ 産業・組織心理学会 部門別研究会（第124回組織行動部門） 話題提供：『感情労働とバーンアウト再考』</p> <p>・【講師】東京都立竹台高等学校 系統・分野別説明会（福祉・心理）</p> <p>・【講師】千葉県立佐倉東高等学校</p> <p>・【講師】東京成徳大学 クラーク記念国際高等学校体験授業 『「心理学入門」…の入門！』</p> <p>・【講師】中山学園高等学校 『「心理学入門」—あなたとワタシのちょうど良い“距離感”』</p> <p>・【講師】千葉県立佐倉東高等学校 『大学で学ぶ「心理学入門」』</p> <p>・【講師】わせがく高等学校勝田台学習センター進学ガイダンス 『「心理学入門…の入門！」』</p> <p>・【講師】千葉県立佐倉南高等学校 進学ガイダンス 『「大学で学ぶ心理学入門」』</p>
<p>9) その他講師，情報提供等</p>	<p>2013年1月</p> <p>2014年2月</p> <p>2014年3月</p> <p>2014年3月</p> <p>2014年9月</p> <p>2018年5月～</p>	<p>・【講師，情報提供】 日本福祉教育専門学校 GSV 「対人援助職」という感情労働 ～持続可能な職業生活のためを知る感情労働とその影響～</p> <p>・【パネリスト，講師，情報提供】 独立行政法人経済産業研究所 人的資本という観点から見たメンタルヘルスについての研究会筆記開示法の実践的応用とその効果</p> <p>・【対談，コメンテーター】 講話（対談）『地域と考える児童虐待』 映画『隣る人』上映会，対談会 28日 高橋 克己・関谷 大輝</p> <p>・【コメンテーター，助言】 『こども支援士』認証講座（アフタースクール）課題研究「現在の子どもたちの成長のスタイルを考える」</p> <p>東京学芸大こども未来研究所 司会：深谷昌志，講評：中山哲志・関谷大輝</p> <p>・【講師】 東京都社会福祉協議会登録講師派遣事業 登録講師</p>
<p>研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項</p>		

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. ライブラリ・スタンダード心理学 8 『スタンダード社会心理学』	共著	2012年12月	サイエンス社	シリーズ第8巻“社会心理学”のうち, “健康”に関する章において, 現代の職業人の精神的健康に関する内容について, 感情労働の視点を中心に据え, 分担執筆を行った。(該当章分担執筆者: 畑中美穂・関谷大輝, 松井 豊(監修), 湯川進太郎・吉田富二雄(編集)) pp. 247-259.
2. 『看護に活かすカウンセリング II 感情のマネージメント—効果的な患者支援と看護師のメンタルヘルスのための自己調節—』	共著	2016年3月	ナカニシヤ出版	シリーズ第2巻中, 感情の開示によるストレス対策について解説する章を分担執筆者として担当した。 (伊藤まゆみ(編), 分担執筆: 関谷大輝, 範囲: 第5章3 『不快な感情を効果的に表出する: 筆記開示法』) pp. 93-102.
3. あなたの仕事、感情労働ですよ?	単著	2016年11月	花伝社	本書は, 一般の読者層を対象にした感情労働の概説書である。著者が実施してきた諸研究の知見をはじめ, 主に心理学的な知見に基づく感情労働の諸理論や諸影響, 対処方略などについて分かりやすく紹介した。
4. 感情心理学ハンドブック	共著	2019年9月	北大路書房	内山伊知郎(監修)。 コラム「スマイルは0円でも一職業場面における感情管理への注目」を執筆した。P. 335.
5. 基礎から学べる 医療現場で役立つ心理学	共著	2020年4月	ミネルヴァ書房	大川一郎・土田宣明・高見美保(編)。 column4-1「医療の仕事に求められる資源—感情—」を執筆した。P. 106.
6. 健康心理学辞典	共著	2019年10月	丸善	日本健康心理学会(編)。 項目「児童虐待」および「感情労働」を執筆した。
7. 教養の心理学	共著	印刷中	ミネルヴァ書房	第15章(予定)「キャリアの心理学」を執筆した。
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
1. 対人援助職者の感情労働における感情的不協和経験の筆記開	共著	2009年10月	心理学研究, 第80巻, 第4号, 295-303頁	本研究では, 感情労働中の感情的不協和(emotional dissonance)経験に着目し, 現職のソーシャルワーカーや保健師

<p>示（査読あり）</p>				<p>などの対人援助職者を対象とした実験的      手続きを行った。具体的には、感情的      不協和経験について日記的な筆記開示      法を行うことを通じて、ネガティブな反      すうおよびバーンアウトの低減を試み      ることが目的であった。この結果、筆記      開示を実施した群の感情的不協和得点      が有意に低減する傾向を示した。筆記開      示によって、労働者が経験した出来事      の認知的な捉え直しが促進され、感情      的不協和の低減に影響を与えた可能性      が示唆された。以上の結果を踏まえて、      対人援助的業務に従事する労働者の健      康維持・向上の方略について、考察を      行った。      （共著：関谷大輝・湯川進太郎）      （第 17 回筑波大学心友会上武学術奨      励賞受賞論文）</p>
<p>2. 感情労働の諸相—表      層演技，深層演技と      副次的プロセスに着      目して—</p>	<p>共著</p>	<p>2010 年 3 月</p>	<p>筑波大学心理学研      究，第 39 号，45-      56 頁</p>	<p>本研究では、実務場面において感情      労働がどのように行われているかを検      討すること、および、感情労働の事後      的影響過程について検討するため、フル      タイムで就労する 8 名の社会人にイン      タビュー調査を実施した。その結果、      業務中のストレスが強いほど、仕事と      プライベートの心理的な切り替えが困      難となり、プライベートな時間に業      務ストレスへの再暴露が起きている傾      向が確認された。今後の感情労働研究      においては、感情労働をプロセスとし      て捉え、事後的過程への対処法略を検      討する必要性が示唆された。なお、本      研究は、財団法人フランスベッドメ      ディカル・ホームケア研究・助成財団      による研究助成（50 万円）を受けて      実施された研究の一部である。      （共著：関谷大輝・湯川進太郎）</p>
<p>3. 副次的感情の開示に      よる感情労働者のバ      ーンアウト低減の試      み—携帯電話の電子      メール機能を活用し      て—（査読あり）</p>	<p>共著</p>	<p>2012 年 10 月</p>	<p>感情心理学研究，      第 20 号，9-17 頁</p>	<p>本研究は、携帯電話の E メール機能      を活用した感情開示によって、現職の      感情労働者のバーンアウト低減を試      みる実験的検討であった。実験条件      として、感情労働の事後的な想起に伴      う感情喚起である副次的感情の開示を      行う実験群、感情的経験とは無関係      な日常生活習慣を開示する統制開示群      、および、開示手続きを行わない統制      無開示群の 3 群を設定した。開示手      続きは、3 週間にわたる日記的開示      とした。二要因混合計画に基づく分散      分析の結果、実験群のバーンアウト      得点、感情的不協和得点、職務の事      後的想起頻度の諸変数が有意に低下      する効果が見られ、副次的感情に着      目したバーンアウト低減方略の有効      性が示唆された。（共著：関谷大輝・      湯川進太郎）</p>

4. 構造化箱庭の特徴および有効性 —自由記述データのテキストマイニングによる検討	共著	2014年3月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部, 第21号, 65-78頁	本研究では, 一般的な箱庭の製作と, 風景構成法の構造的な教示を応用した構造化箱庭の効果の差を検討することを目的に行われた。協力者は, 双方の箱庭製作を体験した感想を自由記述にて回答し, そのテキストデータを用いたテキストマイニングとコレスポネン分析を実施した。その結果, 箱庭に実施方法には双方の手法ともにメリットとデメリットがあることが示唆された。すなわち, 自由箱庭は情動面の活性化に寄与する反面, 不安や迷いといったネガティブ情動も生じるリスクが指摘された。一方, 構造化箱庭では, 箱庭への取り組みやすさが高まる反面, 逐次出される教示による焦りが生まれる危険性が指摘された。(共著: 関谷大輝・加地雄一・鎌田弥生)
5. 箱庭の手続きを構造化することの効果について—主観的自己評価と心拍変動による検討—	共著	2014年3月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部, 第21号, 55-64頁	本研究は, 構造化された箱庭と一般的な箱庭の効果と比較するため, これら2種類の箱庭に取り組んでいる最中の心拍変動や心理尺度への回答傾向を比較した実験研究であった。その結果, 心拍変動については両条件間に有意差は見られなかったが, 感情状態を測定する心理尺度においては, “びくびくした”という項目の得点が, 構造化箱庭の実施後の方が一般的な箱庭実施後よりも低い傾向が見られた。(共著: 加地雄一・関谷大輝・鎌田弥生)
6. 風景構成法における距離感と構造型との関係に関する考察	単著	2014年3月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部, 第21号, 79-88頁	本研究では, 構造化された箱庭の有効性検討に資するため, 構造化箱庭が参考とする風景構成法における描画体験について, “距離感”という視点から考察した。風景の構成が良い画が描画されている際には, (a) 製作者が現実的に作品を見つめる視点に加え, (b) 製作者の内的世界を見つめる視点を併存的に持ちながら描画が行われている可能性が示唆された。(共著: 鎌田弥生・加地雄一・関谷大輝)
7. 感情労働尺度日本語版(ELS-J)の作成(査読あり)	共著	2014年5月	感情心理学研究 第21巻第3号, 169-180頁	本研究は, 感情労働概念において重要な下位概念となる表層演技や真相演技について測定が可能な Blotheridge & Lee (2003)による感情労働尺度を和訳し, “感情労働尺度日本語版”を開発した。本尺度は, 一定の信頼性および妥当性が確認された。一方, 今後さらなる測定精度の改善に向け, 妥当性の詳細な検討や, 項目表現の改善などの課題について言及を行った。(共著: 関谷大輝・湯川進太郎)

8. 大学生の対人サービス活動において経験される不快感とその影響—活動態度の悪化に対する情動知能の調整効果に着目して— (査読あり)	共著	2014年12月	ヒューマン・ケア研究 第15巻第2号, 78-87頁	本研究は、アルバイト等において対人サービス活動に携わる大学生を対象とした調査を行い、活動中の感情的不協和経験に伴う不快感が、活動態度を毀損することを明らかにした。また、この影響の調整要因を検討した結果、情動知能得点の向上することによって、不快感が高まるほどに活動の効力感を向上させる可能性があることを示唆した。(共著: 関谷大輝・塚本智大)
9. 温泉ツーリズム志向と温泉イメージの特徴を探る—心理的要因との関連に着目して—	単著	2015年3月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部— 第22号, 49-62頁	本研究では、我々が温泉に対して抱いているイメージを明確化し、人々の健康増進に対して温泉がいかなる特徴を有しているのかを、定性的・定量的検討から明らかにすることを目的とした。温泉は、類似の入浴施設であるスーパー銭湯よりもリラクゼーションや疲労回復イメージとの結びつきが強い傾向が見られた。また、身体的愁訴が強いほど温泉志向が向上する反面、抑うつ感のような心理的症状が高まると、温泉の活用可能性が低下することが示唆された。(共著: 関谷大輝・加地雄一)
10. メールと Twitter のアカウント作成における個人差 —アカウント名に反映される心理—	共著	2015年10月	東京家政学院大学紀要, 第55号, 37-42頁	本研究では、メールアドレスと Twitter のアカウント名につて、作成者の感情やパーソナリティとの関連を検討した。その結果、作成時の気分によってアカウント名の長短や使い分けに差が生じることが示唆された。また、勤勉性が高い者のアカウント名には有意味語が含まれない傾向が見られた。(共著: 加地雄一・関谷大輝)
11. 感情的不協和経験の概念的再検討—対人援助職従事者による記録調査データを用いて— (査読あり)	単著	2016年3月	福祉心理学研究, 第13巻, 43-53頁	本研究では、感情労働において経験される葛藤である、感情的不協和の実際の発生場面について、対人援助職者 16 名が記述したテキストデータの分析を行った。この結果、感情的不協和は、真の感情、感情規則、表出した感情、価値観といった多様な要因間における齟齬が生じた際に経験されることが示唆された。今後、感情的不協和を多面的な概念構造として捉え直し、労働者に及ぼす影響を実証的に明らかにしていく必要性について考察した。
12. 看護師版感情対処傾向尺度の開発—尺度の信頼性・妥当性の検討 (査読あり)	共著	2017年12月	ヒューマン・ケア研究, 第18巻, 25-35頁	本研究では、現職の看護師を対象にした質問紙調査にもとづき、看護師が職務中に行う感情対処に関する新たな測定尺度の開発を行い、その信頼性と妥当性を検討した。(共著: 金子多喜子・森田展彰・伊藤まゆみ・関谷大輝)
13. 「温泉は、嫌い。」—	単著	2018年3月	東京成徳大学研究	本研究では、わが国においては少数派

				温泉を嫌う人々の理由および心理的特徴の分析—		紀要—人文学部・応用心理学部一, 第25号, 83-96頁	といえる“温泉が嫌い”である人々が抱く嫌悪感の理由について調査した。温泉が嫌いな理由は、必ずしも温泉の“湯そのもの”が嫌いなのではなく、清潔感や他者との入浴などといった環境面への嫌悪感に起因する場合が多いことが明らかになった。
14.	看護師業務における感情管理の特徴—テキストマイニングを用いた面接記録の探索的分析—(査読あり)	共著	2018年3月		ヒューマン・ケア研究, 第18巻, 97-110頁	本研究では、看護師の職務中の感情管理の様態についてインタビュー調査した結果の定性的な整理を通じ、看護師の職業的感情管理の特徴の記述を試みた。看護師業務においては、患者に対する感情管理が求められる一方で、同僚間での感情管理による影響の大きさが示唆された。(共著: 関谷大輝・伊藤まゆみ・金子多喜子)	
15.	2018(2018)年度千葉県内の小中高校におけるスクールカウンセラー活用状況について	共著	2019年3月		東京成徳大学教職課程年報, 第2号, 36-41頁	本実践報告では、千葉県内の小学校、中学校、高等学校の教員を対象としたアンケート結果から、各学校におけるスクールカウンセラーの活用状況や活用・連携上の課題等を定性的に検討した。スクールカウンセラーの勤務体制やスクールカウンセラーが児童生徒に寄り添う姿勢などについて、教員側からの意見が見られた。(共著: 宮村りさ子・関谷大輝)	
16.	感情労働に伴う感情対処育成のためのWeb版教育プログラムの検討(査読あり)	共著	2019年8月		日本看護科学学会誌, 第39号, 45-53頁	本研究では、看護師の適応的な感情調整の在り方を促進する教育プログラムを構築し、その効果の検証を行った。マンガを活用した感情調整方略教材によって、適応的な対処スタイルの習得が促進されることが明らかになった。(共著: 金子多喜子・森田展彰・伊藤まゆみ・関谷大輝)	
17.	職業的感情管理および仕事と家庭の分離が養育行動に及ぼす影響—共働きの母親を対象とした検討—(査読あり)	単著	2019年10月		健康心理学研究(特集号) 早期公開(オンライン)	本研究では、育児に携わっている共働きの母親を対象としたオンライン調査を実施し、職業場面における感情管理の傾向が、家庭における不適応的な養育行動とどう関係するかについて分析を行った。その結果、職務中に深層演技を行う傾向が高い場合、適応的な養育行動の度合いも高いことが示唆された。	
18.	社会福祉士相談援助実習の事後学習における“ワークショップツール”の活用—受講学生による感想文からの示唆と課題—	単著	2020年3月		東京成徳大学教職課程年報, 3, 54-67頁	本稿では、2019年度(2019年度)に開講された「相談援助実習指導Ⅱ」科目の中で、学生による実習の振り返り課題において、広く市販ないし公開されている複数のワークショップツールを活用した結果と課題について、実践報告を行った。	
19.	“温泉好き”はストレスが溜まると温泉	単著	2020年9月		温泉地域研究, 第35号, 11-18頁	本研究では、温泉愛好者と非愛好者において、ストレス反応が高まることで温	

<p>に行くのか？ 一心理的なストレス反応と温泉利用の関連を探る— (査読あり)</p>				<p>泉利用頻度が増すのか否かについて検討を行った。その結果、温泉愛好者であっても、ストレスが蓄積することで温泉利用頻度が低下してしまう可能性が示唆され、温泉をストレス予防的に活用するためには、一次予防的視点が重要となることが示された。</p>
<p>20. お酒を適切に「嗜む」ためのマインドfulnessの応用: Mindful Tasting の探索的検討</p>	<p>共著</p>	<p>2020年12月</p>	<p>埼玉学園大学紀要, 第20号, 89-98頁</p>	<p>本研究では、近年注目されているマインドフル・イーティング概念をレビューしながら、これを飲酒行動に援用したマインドフル・テイasting概念の新たな提起を理論的に試みた。(共著: 高橋誠, 関谷大輝, 森本哲介)</p>
<p>21. 入墨・タトゥーがある客の利用可否をめぐる現状と課題—公共入浴施設等へのインタビュー調査に基づく定性的検討— (査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>2022年(印刷中)</p>	<p>観光研究</p>	<p>本研究では、公共入浴施設(日帰り、宿泊)および温泉協会等の団体に対し、入墨がある利用客の受入可否の状況やその方針の背景、実際の問題の発生状況等をインタビューによって聴取し、問題点や課題を整理した。入墨がある利用客が具体的な問題を起こしたケースは稀であり、主として「他の一般利用客の不安感」を根拠に利用制限が行われている実態が示された。</p>
<p>【学位論文】 22. 感情労働における感情処理プロセスおよび介入方略に関する検討</p>		<p>2011年3月</p>	<p>筑波大学大学院人間総合科学研究科生涯発達科学専攻2010年度博士学位論文</p>	<p>本論文では、サービス産業における感情労働が労働者に及ぼすネガティブな影響として特にバーンアウトに着目し、その軽減を試みることを目的とされた。本稿は、質問紙を用いた調査研究、感情労働を行う社会人へのインタビュー調査、ならびに、実験的研究を用いた9本の実証的研究から構成された。本研究では、労働者が仕事場面から離れた後(休日や帰宅後等)において想起する職務関連感情を“副次的感情”として定期し、副次的感情が労働者に大きな影響を及ぼすプロセスを解明した。この影響を軽減するため、感情の開示方略として筆記開示法を応用した手法によって、労働者のバーンアウトが実際に低減されることを明らかにした。</p>
<p>(学会発表)  【口頭発表】 1. What emotion occurs in emotional dissonance?: exploratory categorization of emotional dissonance among Japanese helping</p>	<p>共同発表</p>	<p>2007年7月</p>	<p>Proceedings of the XV meeting of the International Society for Research on Emotions, 59. (Sunshine Coast, Australia)</p>	<p>本研究では、対人援助職におけるパーソナリティ、感情労働、バーンアウトの関連を検討することを目的として、現職の対人援助職者440名を対象に質問紙調査を実施した。重回帰分析を繰り返したパス解析を用いて、職務中の感情の不協和とバーンアウトの関連を中心とした仮説モデルの検討を行った結果、完全主義傾向や反すう傾向が、バーンアウト促</p>

professionals.					進の一因となることが示唆された。対人援助職のバーンアウトを抑制するためには、パーソナリティ諸要因についての検討が必要となることについて考察を行った。(共同発表：Sekiya, D., & Yukawa, S.)
2. 感情労働における副次的プロセス—副次的感情の影響に関する縦断的検討—	単独発表	2011年7月	日本ヒューマン・ケア心理学会第13回大会 プログラム・発表論文集, 35頁 (大阪市立大学)		本研究では、感情労働者が帰宅後や休日などに事後的に想起する職務関連感情を“副次的感情”とし、表層演技や深層演技といった感情作業の諸変数と副次的感情のそれぞれが、中長期的にどの程度バーンアウトを規定するかを、6か月の調査間隔を設定した縦断的調査によって検討した。社会人248名を対象とした調査の結果、副次的感情は、感情作業に比べて、6か月後の情緒的消耗感および脱人格化に対して、大きな決定係数の増分を示すことが明らかとなった。すなわち、感情労働プロセスにおいては、職務中の感情作業のみならず、事後的な感情喚起過程である副次的プロセスへの着目が重要であることが示唆された。
3. Do emotional laborers reap the benefits of hot springs?: Effects of stress reactions on coping behaviors	単独発表	2016年5月	4th International Conference on Hospitality & Tourism Management (Bangkok, Thailand)		本研究では、感情労働に携わっている社会人の温泉志向性と、実際の温泉訪問頻度について質問紙調査を実施した。分析の結果、ストレス反応が高い一群において、“温泉好き”と“温泉好きではない”者の温泉訪問頻度を比較すると、“温泉好き”である者の温泉訪問頻度が少ないという交互作用が見られることが明らかになった。職業ストレスを受ける者にとってのコーピング方略としての温泉ツーリズムの活用方策について考察した。
4. Emotional labor In the family setting: Impact of mothers' emotional regulations toward husband on child raising	単独発表	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology (Yokohama, Japan)		本研究では、家庭内において母親が夫との関わりの中で行わねばならない感情抑制や感情の偽装を“家庭内感情労働”と位置づけ、それが育児行動に及ぼす影響について検討した。その結果、家庭内感情労働は、一般的な職業としての感情労働と同様に、ネガティブな影響を及ぼす面が見られたのと併せて、共感的な感情管理を行った際にはポジティブな影響を及ぼす性質が見られることが示された。
5. 仲間集団との関わりが持つ意味と影響—日本人とミャンマー人の比較から見える支援へのパースペクティブ—	共同発表	2016年9月	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第18回大会 プログラム・講演集, 36.		本研究では、日本人とミャンマー人の友人関係上の特徴を質問紙調査によって比較した。その結果、日本人は、友人から嫌われたくないと思う程度が非常に高いが、それがストレス反応に結びついていないことが明らかになった。一方で、日本人は、友人集団との関係性が大



6. 看護師版感情対処傾向尺度作成の試み	共同発表	2016年9月	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第18回大会プログラム・講演集, 35.	<p>きなストレス要因になることが示され、日本人の友人関係において友人集団が持つ意味の大きさが示唆された。(共同発表: 関谷大輝・ナン カンキン)(日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第18回大会 優秀発表賞 口頭発表部門受賞)</p> <p>本研究では、現職の看護師を対象にした質問紙調査にもとづき、看護師が職務中に行う感情対処に関する新たな測定尺度の開発を行い、その信頼性と妥当性を検討した。(共同発表: 金子多喜子・森田展彰・大谷保和・斎藤 環・伊藤まゆみ・関谷大輝)</p>
7. The most stressful person in emotional labor: Who someone is the major target of stressful emotional management?	単独発表	2017年1月	the Fifteenth Annual Hawaii International Conference on Arts and Humanities	<p>本研究では、感情労働への従事者が、職務中に関わるとどのような対象者に対して感情管理を行っているのかを、質問紙を用いて調査した。また、あわせて、感情管理上、最もストレス要因となる存在が誰であるかを確認した結果、顧客やクライアント以上に、上司が感情管理上のストレスナーになっているということが明らかになった。</p>
8. 公共入浴施設のフィールドワークから	単独発表	2019年11月	日本温泉地域学会第1回秋季研究会	<p>「温泉入浴の場における入れ墨・タトゥーを考える」をテーマに開催された研究会において、公共入浴施設の管理者に対するフィールドワークの結果を発表した(依頼あり)。</p>
9. デジタルな授業を、アナログで描く。—大学教育における“グラレコ”の活用可能性とその課題—	共同発表	2020年12月	日本福祉心理学会第18回大会(オンライン開催)	<p>本研究では、オンライン授業化された大学の授業において、多様化した授業の受講形態によって学生が授業受講手順の理解に支障をきたしていることに着目し、当日の授業の手順説明にグラフィック・レコーディングを応用することによる効果や課題を実証的に検討した。その結果、グラフィック・レコーディングによる手順説明は、手続きが理解しやすくなる直接的効果にとどまらず、学生の授業に対するモチベーション向上や、教員への好印象形成にも寄与することが明らかとなった。(共同発表: 岡崎桃子・関谷大輝) オンライン発表</p>
10. An Exploratory Study on Workers' Characteristics Affecting the Use of Different Acting Strategies in Emotional Labor	共同発表	2021年3月	The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences (オンライン開催)	<p>本研究では、EAP 企業に勤務するカウンセラー職およびテレホンアポインター職の2職種を対象としたインタビューおよび質問紙調査を実施し、感情労働における演技方略の活用方法の詳細や特徴について定性的な検討を行った。職種によって適切な演技方略に差異がある可能性や、一般にはストレスフルといわ</p>

11. コノ風呂, 入ルベカラズ ー入墨を許容・拒否する入浴施設に対する印象評定の差異に関する検討ー	単独発表	2021年10月	日本感情心理学会第29回大会(学習院女子大学, オンライン開催)	<p>れる表層演技も, 適切に意図して活用されている場合には必ずしもストレスフルとは限らない可能性が示唆された。(共同発表: Nakagawa, S, Sekiya D.) オンデマンド動画による発表</p> <p>本研究では, 入墨がある利用客の利用を公共入浴施設が受け入れた場合の施設に対する印象評価の変化を, 場面想定法による質問紙調査によって検討した。入墨がある客の利用を無条件に許容するのではなく, 迷惑行為等への厳正な対処方針を明記することによって, 他の利用客の印象の悪化が抑制される可能性が示唆された。(日本感情心理学会第29回大会優秀発表賞(グッド・プレゼンテーション賞)受賞)</p>
【ポスター発表】 12. Effects of writing emotional dissonance experiences in daily work on burnout in helping professions.	共同発表	2006年8月	Proceedings of the XIV meeting of the International Society for Research on Emotions, 45. (Atlanta, US)	<p>本研究では, 対人援助職におけるパーソナリティ, 感情労働, バーンアウトの関連を検討することを目的として, 現職の対人援助職者440名を対象に質問紙調査を実施した。重回帰分析を繰り返したパス解析を用いて, 職務中の感情の不協和とバーンアウトの関連を中心とした仮説モデルの検討を行った結果, 完全主義傾向や反すう傾向が, バーンアウト促進の一因となることが示唆された。対人援助職のバーンアウトを抑制するためには, パーソナリティ諸要因についての検討が必要となることについて考察を行った。(共同発表: Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.)</p>
13. 対人援助職者における感情の不協和経験の筆記開示によるバーンアウト低減効果の検討	共同発表	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集, 187頁(九州大学)	<p>上記, 2006年8月に“XIV meeting of the International Society for Research on Emotions”にて発表したものと同一の研究について, ポスター発表を行った。(共同発表: 関谷大輝・湯川進太郎)</p>
14. 対人援助職者における感情の不協和経験の分類	共同発表	2007年9月	日本心理学会第71回大会発表論文集, 81頁(東洋大学)	<p>本研究は, 対人援助職者16名を対象として日常の職務中の感情的不協和経験の記録調査を行い, その記述から, 仕事中に抑制されていた感情の種類の質的分類を試みた。コレスポンデンス分析の結果, 対人援助職者はクライアントに対して, 実際には表出できないような様々な感情を抱いており, 効果的な援助の実施のためには, その感情への適切な対処を行う必要性が示唆された。(共同発表: 関谷大輝・湯川進太郎)</p>
15. 大学生が行う対人サービス活動のやりが	共同発表	2009年5月	日本感情心理学会第17回大会プロ	<p>本研究は, 大学生によるアルバイトや実習, ボランティアといった対人サービ</p>

<p>い感, 効力感の低下・向上要因—感情的不協和に伴う不快感に着目して—</p>			<p>グラム, 30. (徳島大学)</p>	<p>ス活動に着目し, 対人サービス活動における不快感や, 情動知能の効果について検討を行った。その結果, 不快感は対人サービス活動に対する態度を悪化させる要因となるものの, 情動知能が高い場合にはその悪影響が緩和される可能性が示唆された。将来のキャリア形成の視点から, 大学生による実習やアルバイト活動中の感情体験にさらに着目し, 検討を加えていく必要性について考察を行った。(共同発表: 関谷大輝・湯川進太郎)</p>
<p>16. A secondary process of job-related emotion regulation: how can we intervene in emotional labor?</p>	<p>共同発表</p>	<p>2009年8月</p>	<p>Proceedings of the XVI meeting of the International Society for Research on Emotions, 128. (Leuven, Belgium)</p>	<p>本研究は, 対人援助職者 500 名, その他の職業従事者 400 名, 計 900 名を対象に実施したアンケート調査を行った。分析の結果, 業務に関連した感情経験の影響は務外の時間にまで及んでおり, 事後的に感情作業を想起した際に抱く感情(副次的感情)の喚起が, バーンアウトを強く促進する働きを持つことが示唆された。対人援助職者の職業的持続可能性の観点から, 職種に応じたストレス対処方略を検討する必要性について考察した。(共同発表: Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.)</p>
<p>17. 携帯電話のEメールを活用した感情開示効果の検討—感情労働を行う現職の社会人を対象に—</p>	<p>共同発表</p>	<p>2010年5月</p>	<p>日本感情心理学会第18回大会プログラム・予稿集, 30頁。(広島大学)</p>	<p>本研究では, 携帯電話のEメール機能を活用した感情開示によって, 現職の感情労働者のバーンアウト低減を試みる実験的手続きを行った。感情開示を行う実験群は, 感情労働の事後的な想起に伴う感情喚起である副次的感情を, 3週間にわたって日記的に開示した。感情的経験とは無関係な日常生活習慣を開示した統制群と, 感情経験を開示した実験群の比較を行った結果, 実験群のバーンアウト得点の有意な低下が見られた。したがって, 感情労働ストレスによる影響の軽減には, 副次的感情に着目することが効果的であり, さらに, 副次的感情を適切に開示していくことが, 感情労働プロセスへの介入方略として有効である可能性が示唆された。(共同発表: 関谷大輝・湯川進太郎)(日本感情心理学会第18回大会優秀発表賞受賞)</p>
<p>18. 学生を対象とした感情労働研究は有効か? —社会人および学生の調査結果の比較から—</p>	<p>共同発表</p>	<p>2010年9月</p>	<p>日本心理学会第74回大会発表論文集, 82頁。(大阪大学)</p>	<p>本研究では, 感情労働に関する同一の質問紙調査を社会人および大学生アルバイトを対象として実施し, 多母集団分析を用いて感情労働プロセスモデルの比較を実施した。その結果, 一部の変数間の関係において, 社会人と大学生の間に有意な差が見られることが明らかになった。その一方で, 全体的な感情労働プロセスは, 双方の群において同一のモデルが良好な適合を示し, 全体的な傾向</p>

19. Longitudinal study of the effects of secondary emotions in emotional labor	共同発表	2011年7月	Proceedings of the XV meeting of the International Society for Research on Emotions, 248. (Kyoto, Japan)	<p>においては、群間に著しい差異はないことが示唆された。(共同発表：関谷大輝・湯川進太郎)</p> <p>前記，2011年7月に“日本ヒューマン・ケア心理学会第13回学術集会(大阪市立大学)”において発表したものと同一の研究について、ポスター発表を行った。(共同発表：Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.)</p>
20. Disclosing secondary emotions through expressive writing using cell phone text messages reduces burnout in emotional laborers	共同発表	2011年10月	Proceedings of the V meeting of the (Non) Expression of Emotions in Health and Disease, 151. (Tilburg, The Netherlands)	<p>本研究は，2010年5月に“日本感情心理学会第18回大会”にて行ったポスター発表に，新たなデータ(開示手続きを行わずに結果測定のみ実施した統制群データ)を追加し，再分析した結果を報告した。(共同発表：Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.)</p>
21. 感情労働における感情的不協和概念の再検討—概念構造の多面性に関する予備的考察—	共同発表	2013年7月	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第15回大会プログラム・抄録集，49. (聖路加看護大学)	<p>本研究は，感情労働における感情的不協和概念について，多面的構造として概念を捉え直す試みとして，新たに構成した尺度を用いた予備的調査結果を分析した。この結果，感情的不協和は，自分自身の言動を振り返ることによる不協和である内生的不協和と，仕事として自らの意図とは異なる言動をしたことによって生じる役割的不協和の2下位因子に分類できる可能性が示唆された。(共同発表：関谷大輝・湯川進太郎)</p>
22. 看護師の職務における感情調整に関する探索的検討	共同発表	2015年9月	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第17回大会プログラム・発表論文集，40. (日本赤十字看護大学)	<p>本研究では，現職の看護師に対して職務中の感情調整に関する面接調査を実施した。得られたナラティブデータをテキストマイニングによって分析した結果，看護師の感情調整の対象者は，先行研究にも見られるように患者に対するものが多いことが示唆された。また，同時に，職場内の人間関係，特に上下関係がストレス要因となっていると考えられる看護職の感情調整の特徴が浮き彫りになった。(共同発表：金子多喜子・関谷大輝・伊藤まゆみ)</p>
23. 母親の家庭内感情労働と孤独感が養育態度に及ぼす影響	共同発表	2015年10月	第13回日本福祉心理学会年次大会プログラム・抄録集，59. (東京福祉大学)	<p>本研究では，母親が家庭内で役割を遂行するために，夫や自分の子どもに対して感情を管理せねばならないことを“家庭内感情労働”と位置づけ，それが母親の孤独感にどのような影響を及ぼすかを検討した。その結果，感情を偽るなどの演技的な感情管理は母親の孤独感を促進し，結果的に不適切な養育にも結び</p>

24. LINE 上のコミュニケーションはユーザーにどう捉えられているのか？ —使用時の感情状態および情報伝達に着目した予備的検討—	共同発表	2016年6月	日本感情心理学会第24回大会（筑波大学）	<p>つく危険性が示唆された。（共同発表：佐藤裕実・関谷大輝）</p> <p>本研究では、SNS ツールである LINE のユーザーが使用時に LINE に対してどのような使用感を持っているのかについて、質問紙を用いた調査を実施した。その結果、LINE は迅速な情報交換が可能な便利なツールとして捉えられている反面、既読機能の存在等によって人間関係上の葛藤や面倒さをもたらすことや、感情や意図が正確に伝わらないことがあるといったデメリットも認識されていることが明らかとなった。（共同発表：福島法子・関谷大輝・石井辰典）</p>
25. “温泉志向性”の促進要因に関する予備的検討 — Daily hassles および行動賦活系との関連—	単独発表	2016年6月	日本感情心理学会第24回大会（筑波大学）	<p>本研究では、温泉に行きたいと思う程度である“温泉志向性”が、個人のどのような要因によって促進されるのかを検討した。その結果、日常生活における様々なストレス経験である日常いらだち事の多寡と温泉志向性の間には関連が見られなかった。一方で、パーソナリティ特性のひとつである行動賦活系の高い人は、温泉志向性も高いという傾向が見られた。日常のストレスが多いことが温泉志向性を促進するのではなく、性格特性が温泉志向性を規定している可能性が示唆された。</p>
26. あなたの印象は1分で悪化する：既読後の時間経過が印象評価に与える影響	共同発表	2017年6月	日本感情心理学会第25回大会（同志社大学）	<p>本研究では、SNS ツールである LINE を用いた実験を行い、LINE の返信に要する時間が遅延すると、その相手に対する印象が悪化するという仮説を検証した。その結果、一度迅速な返信を経験した群において、その後返信が遅い相手と出会った際に、その相手に対する総合的な印象が有意に悪化することが示された。（共同発表：福島法子・関谷大輝・石井辰典）</p>
27. 温泉を嫌う人々の声 —“温泉嫌い”の理由と特徴を探る—	単独発表	2018年5月	日本温泉地域学会第31回研究発表大会	<p>本研究では、わが国においてマイノリティである“温泉嫌い”に着目し、温泉を嫌いな理由や背景に関する分析を行った。インターネット上のQ&amp;Aサイトに投稿された書き込みの分析と、オンライン調査実施結果を総合的に分析した結果、温泉嫌いの背景には大きく3点の理由があり得ることが示された。また、温泉嫌いである人々のパーソナリティ特性として、外向性や開放性が低い一方、神経症傾向に関してはあまり差が見られない可能性が示唆された。</p>
28. 「えーと、あの一、まあ…」 —不適切なフ	共同発表	2018年11月	日本感情心理学会第26回大会（東	<p>本研究では、“えーと”、“あの一”といった言い淀みであるフィラーの影響に</p>

イラーが聞き手による印象評定に及ぼす影響—			洋大学)	着目し、フィラーが過度に用いられた際の印象変化を実証的に検討した。その結果、フィラーが過度に用いられた場合には、話し手に対する印象が総体的に悪化することが示された。(共同発表:上野未来・関谷大輝)
29. 温泉愛好者はストレス解消のために温泉に行くのか?—職業ストレスと温泉利用頻度の関係に関する実証的検討—	単独発表	2018年11月	日本温泉地域学会第32回研究発表大会	本研究では、社会人の温泉愛好者および温泉非愛好者を対象に、ストレスの高低に応じて実際にどの程度温泉地を訪問しているのかについて検討した。本研究は、2016年5月に4th International Conference on Hospitality & Tourism Management において発表した研究の再分析結果の報告であった。
30. Assigning proper meaning to stressful nursing work enables adaptive emotion regulation in patient-nurse relationships	単独発表	2019年1月	17th Annual Hawaii International Conference on Arts & Humanities	本研究は、看護師を対象にした質問紙調査の結果から、ストレスフルなケアに対する意味づけのスタイルと、看護師業務における適切な感情調整方略の関連について検討した。意味づけにおいて、意味の発見や意味の理解によって、適応的な感情調整に結びつく可能性が示唆された。(共同発表: Sekiya, D., Ito, M., & Kaneko, T.)
31. Factors affecting career resilience in nurses	共同発表	2019年1月	17th Annual Hawaii International Conference on Arts & Humanities	本研究は、現職看護師に対する質問紙調査の結果から、キャリアレジリエンスを高める要因に関する検討を行った。その結果、自分らしくあるという感覚である本来感は、一貫してキャリアレジリエンスに対する正の影響を持つことが示された。(共同発表: Ito, M., Kaneko, T., & Sekiya, D)
32. The role of gender and experience on nurses' emotional coping ability	共同発表	2019年1月	17th Annual Hawaii International Conference on Arts & Humanities	本研究では、看護師を対象とした質問紙調査の結果から、性差と経験年数によって看護師業務における感情調整のスタイルに差が生じることについて検討した。その結果、男性看護師は女性看護師に比べて自己感情優先および両感情回避的な対処を取りやすい傾向があることが示された。(共同発表: Kaneko, T., Ito, M., & Sekiya, D)
33. 公共入浴施設のフィールドワークから	単独発表	2019年11月	日本温泉地域学会第一回秋季研究会「温泉入浴の場における入れ墨・タトゥーを考える	本報告では、公共入浴施設における入れ墨・タトゥーの取り扱いについて、施設の管理者や温泉協会を対象に実施しているインタビュー調査の結果を、途中経過報告として発表した。入れ墨・タトゥーに対する姿勢は施設ごとの判断に任されている一方で、入れ墨・タトゥーがある人が具体的トラブルを起こす例は少ないことが示唆された。
34. “その人らしい”っ	共同	2019年11月	日本福祉心理学会	本研究では、対人支援領域においてし

て何ですか？ —その人らしさを理解するための要素を定量的に測定する尺度案の作成—	発表		第17回大会（東京家政大学）	ばしば用いられる「その人らしい」という概念について、その内容や構造を定量的に測定することを目指して、定性的な調査を踏まえた尺度の項目案について検討した。（共同発表：田中鳩子・関谷大輝）
35. 仕事で笑いたければ余暇で泣け！？ —面接調査から“余暇活動における負荷”の構成要因と影響を探る—	共同発表	2019年11月	日本福祉心理学会第17回大会 2019年11月24日	本研究では、余暇活動の中で様々なストレスや一定の負荷がかかることが、職業ストレスと向き合う際にポジティブな影響をもたらすという仮説のもとに、現職社会人にインタビュー調査を行った結果を整理して報告した。（共同発表：遠藤由美子・関谷大輝）
【ワークショップ】 36. 感情の筆記開示でバーンアウトを軽減できるか—対人援助職者における感情の不協和経験の筆記開示によるバーンアウト軽減の試み	—	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集, W41頁（九州大学）	対人援助職者の感情抑制と感情開示をテーマに、対人援助現場からの話題提供者として、ワークショップにおけるプレゼンテーションを行った。福祉・看護等の対人援助業務に従事する諸職種のストレス対処方略について、感情が果たす役割の重要性と、いかにして対人援助職者が心身ともに健康な職業生活を送るよう支援が可能かについて、議論を行った。（ワークショップ“感情・思考の抑制と開示：対人援助職におけるメンタルヘルスの改善に向けて” 企画者：余語真夫・佐藤健二・河野和明・大平英樹・湯川進太郎，司会者：河野和明，話題提供者：勝原裕美子・松井 豊・関谷大輝，指定討論者：佐藤健二）
37. 「あ、かわいい！」があなたを磨く？—“かわいい発見力”とストレングススポットティングの関連—	共同発表	2020年12月	日本福祉心理学会第18回大会（オンライン開催）	本研究では、日本語における「かわいい(kawaii)」概念に着目し、必ずしも「かわいい」デザインではないような様々な静物・生物を写真刺激で呈示し、それらを「かわいい」と評価する者の特性について検討した。その結果、対象物に対して「かわいい」と感じやすい者は、共感性が高い傾向にあることが示唆された。（共同発表：松本佳奈美・関谷大輝）
【小講演】 38. 感情開示方略を応用した感情労働者のバーンアウト低減 —感情労働プロセスの再検討を通じて—	単独発表	2011年9月	日本心理学会第75回大会（日本大学）小講演	日本心理学会第75回大会小講演において、感情労働者のバーンアウトに低減可能性やその方略に関する小講演を実施した。具体的には、感情労働プロセスの再検討を実施した諸研究から導かれた“副次的プロセス”への着目の重要性と、感情の開示方略として筆記開示法を応用した手法を用いた労働者のバーンアウト低減に関する実験的検討の結果について述べ、実践場面への応用可能性について議論を行った。（司会者：湯川進太郎，講演者：関谷大輝）

<p>【シンポジウム】</p> <p>39. 児童虐待の養育者の心理社会的要因と児童虐待防止への健康心理学的アプローチの試み</p>	—	2013年9月	日本健康心理学会第26回大会（北星学園大学）	<p>本シンポジウムでは、日本健康心理学会児童虐待防止研究部会の活動の一環として、児童虐待防止という観点から健康心理学的なアプローチを模索していくための問題提起と話題提供を実施した。本研究部会の活動紹介と併せて、児童虐待防止に関する研究史、離婚が子どもに及ぼす心理的影響についての話題提供を受け、元児童福祉司としての勤務経験と、臨床社会心理学的な研究の視点から、指定討論者としてのコメントと論点整理を行った。（企画者：宮村りさ子・久米喜代美，司会者：宮村りさ子，話題提供者：益子行弘・土橋佑巳子・宮村りさ子，指定討論：関谷大輝）</p>
<p>40. 旅（ツーリズム）と感情～観光行動における“癒やし”～</p>	—	2016年6月	日本感情心理学会第24回大会（筑波大学）	<p>本シンポジウムは、我々人間の観光行動（ツーリズム）が、大会テーマである“癒やし”とどのように関連するかについて、ツーリズム業界で働く実務家とともにディスカッションを行うことを目的に企画した。また、話題提供者として、『消費者（ゲスト）にとってのツーリズムと“癒やし”～温泉ツーリズムの心理学的検討から～』というタイトルで温泉ツーリズムと癒やしの関連について、温泉心理学研究の知見について紹介した。（企画者：関谷大輝，話題提供者：村生和子・北川弘二・関谷大輝，指定討論：山中 弘）</p>
<p>41. 児童虐待に関連する心理社会的要因について—健康心理学的な視点から児童虐待の諸問題について考える—</p>	—	2016年11月	日本健康心理学会第29回大会（岡山大学）	<p>本シンポジウムでは、児童虐待と関連する心理学的要因として、愛着の内的作業モデルに基づく知見をはじめとした話題提供が行われ、これを受け、現場実践の観点からの指定討論を行った。（企画者：宮村りさ子・久米喜代美，話題提供者：宮村りさ子・福井義一・松尾和弥，指定討論者：関谷大輝・鈴木 平）</p>
<p>42. 感情労働研究再考—心理学分野における感情労働研究のこれからを問い直す—</p>	—	2017年9月	日本心理学会第81回大会（久留米大学）	<p>本シンポジウムは、現在のわが国で感情労働に関連した研究を積極的に展開している研究者を話題提供として迎え、感情労働研究が抱える課題と、今後の研究に求められる方向性についての展望を議論した。（企画者：関谷大輝，話題提供者：榊原良太・金子多喜子・中川紗江・関谷大輝，指定討論者：荻野佳代子）</p>
<p>43. ストレスケアに対する異文化視点の必要</p>	—	2018年6月	日本ヒューマン・ケア心理学会第	<p>本シンポジウムでは、主に東南アジア地域を対象とした異文化間交流におけ</p>



性—日本人とミャンマー人の比較から— (学術委員会企画シンポジウム『トランス・カルチュラル・ヒューマンケア—ケアは国境を越えて—』)			20 回大会 (京都橘大学)	るヒューマン・ケアの現状と在り方に関する話題提供と議論が行われた。(企画者: 日本ヒューマン・ケア心理学会学術委員会・清水裕子・小玉正博・中込さと子・菅佐和子, 司会者: 中込さと子・木村登紀子, 話題提供者: 関谷大輝・依田健志・清水裕子・熊谷信広)
(その他)				
<p><b>【研究助成報告書】</b></p> <p>1. 在宅生活を支援する対人援助業務従事者の感情労働に関する研究—感情管理がもたらすネガティブな影響の予防と, ポジティブ効果の増進を目指して—</p> <p>2. 「マインドフル育児」が持つ効果の実証的解明—マインドフル育児を測定する日本語版尺度の開発に向けた予備研究— (中間報告)</p> <p>3. マインドフルな育児行動による効果の検討—マインドフル育児尺度の作成および知見のマンガ教材化の試み—</p> <p><b>【著書紹介】</b></p> <p>4. 自著紹介「あなたの仕事、感情労働ですよね？」</p> <p>5. 書籍紹介 あなたの仕事、感情労働ですよね？</p> <p><b>【書評】</b></p> <p>6. 書評『観光亡国論』アレックス・カー／清野由美著</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>2009 年 9 月</p> <p>2018 年 6 月</p> <p>2019 年 6 月</p> <p>2017 年 3 月</p> <p>2017 年 4 月</p> <p>2019 年 8 月</p>	<p>財団法人フランスベッドメディカル・ホームケア財団 第 19 回 (平成 20 年度) 研究助成・事業助成報告書, 660-689 頁</p> <p>発達研究 (公財) 発達科学研究教育センター紀要, 32 号</p> <p>発達研究 (公財) 発達科学研究教育センター紀要, 33 号, 53-66 頁</p> <p>ヒューマン・ケア研究, 17(2), 115 頁</p> <p>サービソロジー, 4(1), 33 頁</p> <p>温泉地域研究, 33, 67 頁</p>	<p>本研究では, フルタイムで就労するソーシャルワーカーや医療職, 民間企業勤務者など 8 名の社会人にインタビュー調査を実施した。その結果, 業務中のストレスが強いほど, 仕事とプライベートの心理的な切り替えが困難となり, プライベートな時間に業務ストレスへの再暴露が起きている傾向が確認され, 事後的なストレスへの再暴露に対する対処法略を検討する必要性が示唆された。</p> <p>マインドフル・ペアレンティングについての実証研究について, 中間報告を実施した。</p> <p>本研究では, マインドフルネス概念を育児場面に応用した「マインドフル育児 (mindful parenting)」に着目し, この傾向を測定可能な日本語版尺度の開発を行った。この尺度を用いた調査の結果, マインドフル育児は適応的な育児を促進することが示されたため, マインドフル育児に該当する育児姿勢をマンガのストーリーとしてまとめた教材の作成を行った。</p> <p>著書紹介記事を執筆した。</p> <p>著書紹介記事を執筆した。</p> <p>編集委員会からの依頼に基づき, 書評記事を執筆した。</p>
[競争的資金]				

1. 在宅生活を支援する対人援助業務従事者の感情労働に関する研究—感情管理がもたらすネガティブな影響の予防と、ポジティブ効果の増進を目指して—	研究代表者	2008年～2009年	財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団 2008年度(第19回)研究助成	500,000円。 対人援助職における感情労働の諸影響を質問紙調査によって明らかにし、感情労働を測定する尺度開発等につなげた。
2. 感情労働における感情処理プロセスに着目した健康増進プログラム開発のための基礎研究	研究協力者	2009年～2011年	日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	研究代表者:湯川進太郎
3. 児童虐待防止に関する研究会	共同研究者	2012年～2015年	日本健康心理学会研究集会等助成金	研究代表者:宮村りさ子
4. 発達障害児を抱える里親の養育困難に関する実証的研究	研究分担者	2014年～2016年	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C	研究代表者:中山哲志(東京成徳大学),
5. 看護師の感情マネジメントスキル育成のための教育・介入プログラムの構築	研究分担者	2014年～2016年	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)	研究代表者:金子多喜子(杏林大学)
6. 「マインドフル育児」が持つ効果の実証的解明—効果的な育児に寄与するマンガ教材の作成—	研究代表者	2017年～2018年	発達科学研究教育センター(CODER)学術研究助成事業	500,000円 マインドフルな養育態度が及ぼす諸効果・影響について質問紙調査をもとに検討し、マンガ教材を制作した。
7. 福祉系公務員志望者に対するキャリア支援(個別受験対策)の実施	代表者	2019年～2020年	東京成徳大学学長裁量経費	48,000円。 公務員志願者に対するキャリア支援,合格支援に活用し,公務員試験合格者を排出した。
8. 看護師キャリアレジリエンス獲得支援に関する基礎的研究	分担研究者	2018年～2020年	日本学術振興会文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(C)	研究代表者:伊藤まゆみ(目白大学)
9. タトゥーを受け入れる公共入浴施設に対する印象評価の変容に関する実証的検討—利用客の不安低減に伴う効果と影響の解明—	研究代表者	2019年～2020年	公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団 2019年度研究助成金	500,000円。 公共入浴施設における入墨の受入に関する実態調査としてフィールドワークを行い,今後の対応を検討する目的での質問紙調査を全国規模で実施した。

10. 演じるスキルの向上を通じてケア従事者の支援スキルと職業的魅力を高める試み—“ポジティブな影技”の実現に寄与する演技方教育プログラムの作成を目指して—	研究代表者	2019年 ～2020年	日本ヒューマン・ケア心理学会 研究助成金	100,000円。 感情労働における演技に着目し、俳優に対するインタビュー調査を通じて「より良く演じる」ことについて定性的な検討を実施した。
11. シームレスながん医療を促進するコーディネート能力向上プログラムの開発と有効性の検討	共同研究者	2018年 ～2021年	埼玉県立大学 Eプロジェクト研究	研究代表者:飯岡由紀子(埼玉県立大学)
12. 看護師のキャリア成熟とキャリアレジリエンスの獲得が職業的アイデンティに及ぼす効果	研究分担者	2019年 ～2022年	日本学術振興会 2016年度 基盤研究 (C)	研究代表者:伊藤まゆみ(目白大学)
13. チームの納得を推進するための看護師のコーディネート力向上プログラム開発と評価	研究分担者	2019年 ～2024年	日本学術振興会 基盤研究 (B)	研究代表者:飯岡由紀子(埼玉県立大学)
14. 看護基礎教育における共助による学習エンゲージメント向上にむけた介入研究	研究分担者	2021年 ～2024年	文部科学省科学研究費助成事業	研究代表者:石井慎一郎(自治医科大学)